

## 同期会に参加して

深川医師会  
深川市立病院

### 代田 剛

卒後50年を記念する同期会が、秋も深まった10月の連休に、定山溪温泉であった。卒業時は89名で、周囲の期と比べるとやや少数である。また同窓会名簿によると、我が期は物故者が多い期となっている。思えば我が期のほとんどの人が、太平洋戦争において日本が劣勢になったときに生まれてきている。その後の食を始めとした貧しい時代に子供時代を送っていることも、死亡者が多いことと関係しているであろうか。また卒業時には、その2年前くらいから起こってきた大学紛争がさらに激しくなり、あたかもクラスが『全共闘派』と『それ以外』との二派に分かれたようになってしまった。そのような中での卒業であった。

平常でない状態はこの日の同期会開催でも発生した。それは台風19号という近年にない超大型台風の直撃により、参加を予定していた関東地方在住の複数の同期が、羽田空港と成田空港の閉鎖により不参加となってしまったのである。企画者は参加しやすいようにと連休を選んだというのに。誠に残念であった。関西在住の同期は参加できてよかったというわけで、道内を中心とした23名の参加であった。それに3名の奥様が加わっている。最も遠い参加は米国ネバダ州からであった。卒後50年なので、顔貌や体には年輪が刻まれているが、いざ言葉を交わしてみると、考え方は学生時代と変わっていないように思えた。50年は会社や組織では半世紀の区切りであり、夫婦では金婚式でおめでたい記念碑である。50年はまた卒業時に分かれていた二派のわだかまりを水に流す期間となった。一緒に学び、遊んだ同期と集まれるのは素晴らしいことである。一次会では参加者個人のスピーチが長くなり、会場借用時間をはるかに超えた。二次会も夜遅くまで続いた。話す内容は学生時代の天下国家とは違って他愛のないことであるが。



一夜明けて露天風呂に浸かった。垣根により幹が隠され、枝と葉だけが見えたモミジがことさら綺麗であった。

設定から進行まで行ってくれた幹事の皆さんに感謝します。

## 先生との思い出

室蘭市医師会  
製鉄記念室蘭病院

### 氏家菜々美

私が医師を志したのは中学校の担任の先生との出会いがきっかけです。とても親身になってクラスを導いてくれる先生でした。特に学校祭に向けて壁新聞を作りながら将来の夢について相談したり、先生が登録したという骨髄バンクの話の聞いたりしたのが思い出深いです。しかし初めての学校祭が終わった日を境に異変が起こりました。先生が突然学校に来なくなったのです。当初は胸に影が見つかったと聞いたため肺炎だと思っていた私でしたが、後に先生が乳癌を患ったことを知りました。すぐ帰ってくるだろうと思って待っているうちに1年が過ぎ、2年が過ぎ、中学校を卒業しても先生は学校に帰ってきませんでした。

闘病中の先生とは数年に渡り電話や文通を続けましたが、その間私は乳癌という病気に対して知ることを無意識に避けていたような気がします。こんなに若い人がなる病気でもが一のことなんか起こるはずがない、そもそもこれだけ医療が発展しているのだから治らないなんてことはないはず、と決めつけていたのです。結局乳癌という病気に向き合わざるを得なくなったのは先生が亡くなった後のことでした。お若かった先生がどうして癌になったんだろう、乳癌はどうやって見つけるんだろう、どうしたら先生を治せたんだろう。そう考えていくうちに少しずつ医師への、そして乳腺外科医への憧れが芽生えていったように感じます。

去年、私は大学を卒業し新米の医師となりました。将来医師になりたいと思うと手紙で伝えた時、先生がとても喜んで応援してくれたことを思い出します。現場で働いていく中で自分の勉強不足や努力不足を痛感し、常に学び鍛え続けていかなければ医師にはなれないのだと強く感じる毎日です。先生方の親身なご指導や患者様の深いご理解に支えられ充実した研修を送らせていただいていることに感謝をしつつ、これからも臨床研修に邁進していきたいと考えています。